

報告

2013参議院議員選挙 羽生田たかし氏自民比例第6位で当選

23回目となる参議院議員選挙が7月21日を投票日として実施された。残念ながら投票率は過去23回行われた参議院議員選挙で、下から3番目となる52.61%であった。

そのような中で、日本医師会副会長で自民党比例代表候補として出馬した羽生田たかし氏は、249,818票を獲得し当選。自民党の比例代表で当選した18名中6番目の得票であった。

この結果、12月の衆議院議員総選挙で大勝した自民・公明の政権与党は、参議院議員選挙においてもその勢いを止めることなく大勝し、参議院定数242の過半数を超える135議席を獲得、いわゆる衆参のねじれを解消する結果となった。

羽生田たかし氏の得票数は、下記のとおりである。

全国

北海道	5,222	石川県	3,130	岡山県	2,835
青森県	3,187	福井県	2,986	広島県	4,736
岩手県	2,721	山梨県	942	山口県	3,573
宮城県	2,991	長野県	3,195	徳島県	1,635
秋田県	1,300	岐阜県	6,819	香川県	1,051
山形県	1,215	静岡県	3,871	愛媛県	4,049
福島県	2,184	愛知県	9,822	高知県	2,160
茨城県	2,089	三重県	2,523	福岡県	29,880
栃木県	3,689	滋賀県	1,626	佐賀県	3,383
群馬県	43,163	京都府	2,642	長崎県	6,558
埼玉県	8,235	大阪府	9,314	熊本県	8,318
千葉県	4,384	兵庫県	6,874	大分県	2,251
東京都	14,840	奈良県	2,435	宮崎県	3,380
神奈川県	8,184	和歌山県	1,407	鹿児島県	5,161
新潟県	1,815	鳥取県	1,494	沖縄県	3,781
富山県	1,185	島根県	1,583	合計	249,818

※「羽生田たかし」または「羽生田」などと個人名を投票した数

北海道

札幌市	2,187	室蘭市	88	富良野	39
江 別	91	胆振西部	28	上川郡中央	25
石 狩	41	苫小牧市	159	上川北部	39
千 歳	26	日 高	23	留 萌	34
恵庭市	66	岩見沢市	83	宗 谷	25
北広島	32	空知南部	43	北 見	125
函 館	254	夕張市	9	紋 別	47
渡 島	126	三笠市	6	遠 軽	22
桧 山	11	美唄市	38	美 幌	33
北部桧山	0	空 知	21	網 走	50
小樽市	345	滝川市	48	帯広市	169
寿 都	1	赤平市	14	十 勝	77
羊 蹄	24	芦別市	12	釧路市	193
岩内古宇郡	6	旭川市	399	根室市外三郡	70
余 市	72	深 川	21	合 計	5,222

※「羽生田たかし」または「羽生田」などと個人名を投票した数

特集

「参議院議員羽生田たかし氏に期待する！」

羽生田参議員誕生



北海道医師連盟委員長 長瀬 清

第23回参議院議員選挙で、6年ぶりに日医から会
内候補の当選を果たした。得票数約25万票、当選順
位は自民党内で6位となり、素直に喜ぶたい。会内
候補者を立てるべきか否か、どなたを立てるか多く
の意見があり、紆余曲折のすえ羽生田副会長を擁立
し選挙に臨むことになった。出遅れが心配された

が、3度の失敗は許されないとの危機意識から、医
療団体が分裂を回避し結束、また会員の皆様が協力
してくれた結果である。医療は今、大変難しい立ち
位置にある。最も憂慮されているのは、国がTPP交
渉に参加を決め、交渉の場についたことで、成り行
きによっては世界に誇る国民皆保険制度が崩壊する
ことである。そして、経済成長を金科玉条に、医療
の非営利性を放棄、市場原理にまかせることになり
はしまいか心配である。消費税の税率アップはすで
に決まった。控除対象外消費税は病院にとって致命
的な打撃となる。問題にはなっていないが、さっば
り前に進まず会員の不安はつもの。この6年間、医
師会の代弁者を持たなかったツケは大きい。羽生田
新参議院議員には、政治の中に入りそのような懸念
を打ち砕く活躍をされることを心から願うものであ
る。

参議院選を省みて



小樽市医師連盟委員長 津田 哲哉

7月21日の参議院議員通常選挙は、これからの日本医師会のみならず、医療界の将来にかかわる重要な戦いである事は選挙前から強く言われておりました。TPPは日本国民の医療を暗黒の闇に落とし入れるものである事は明白であります。これに対して医療従事者、特に医師が先頭に立って、これに対する異議を唱えなければならず、その最善の方法として羽生田たかし先生を圧倒的勝利(票数)のもと、国会

に送り込まなければならぬ選挙だったはずでした。

7月17日に、日本医師連盟中川俊男副委員長がお出でになり、羽生田たかし個人演説会が小樽市医師会館4階講堂で開催されました。投票日まで3日というタイミングでしたが、当会館講堂に小樽市医師連盟員、市内医療関係者など150名もの方が出席し、選挙戦終盤を迎える事が出来ました。改めて、選挙活動は意気込みと人に訴える力が大切であること、また電話での直接のお願いは、説得力があり有効な戦法である事を再認識しました。

羽生田たかし先生は見事当選を果たしましたが、今回の結果を見ると、全国医師連盟員の力は、一歩も二歩も結束力が足りない事を痛感しました。今後は、この力不足を補う為にどうしなければならないのか、全体で、各都道府県で、各郡市で、それぞれ総括する必要があると思います。

今回は、もっと高位で当選できたはずであり、そうあるべきであったと思います。

地方を行脚し現場と対話を



旭川市医師連盟委員長 山下 裕久

去る7月3日に羽生田たかし日医副会長が来旭され、上川北部、留萌、富良野医師会を含め道北の医療関係者が意見交換会に参集された。

夕刻の1時間余りであったが、地域の開業医・勤務医が日医中枢と直に顔を合わせた。「国民皆保険制

度の維持を政権与党内で声高に主張する」との羽生田先生の発言に参会者の大拍手があった。そして、今回の羽生田たかし参議院議員の誕生により、日医はもとより医師の代表として、国会での意見発信の橋頭堡が久しぶりに確保された。

TPPにおいては、米国の要求する混合診療解禁、営利企業参入、薬品の特許期限延長など医療に直接関係する問題が多く含まれるが、多国籍企業の狙いを広汎に注目する必要がある。

羽生田先生には、国会内外で情報を集め、日医と協議し、医療政策の向上推進に努めていただきたい。任期6年の間に、最北端の稚内から最南端まで何度も行脚し、現場に情報を伝え、直接対話をしてほしい。そのことが、日医と現場との距離を縮め、勤務・開業医の強調と結束を強めることになる。来旭の実経験から地方行脚に期待する。

羽生田たかし氏の当選を祝す



北見医師連盟委員長 古屋 聖児

第23回参議院員選挙において、日本医師連盟の組織内候補である日本医師会副会長の羽生田たかし氏が当選を果たした。本人はもとより、関係者に対し祝意を表したいと思う。

過去 2 回、日本医師連盟推薦のたけみ敬三氏と西島英利氏が落選の憂き目にあった事実からみると、

今回の選挙はまさに日本医師連盟の力量が問われる試金石であった。負けられない選挙であったが、見事当選したことは大いに評価される。日本医師連盟にとっても支援した我々にとっても、ご同慶の至りである。

しかし、獲得票数は約25万票で比例順位 6 位であるが、平成13年の参議院選挙で当選したたけみ敬三氏の獲得票数約23万票（比例順位 8 位）と比較して大躍進とはいえ、目標の30万票に届かなかったことは反省材料の一つであると考えます。

今後、羽生田たかし氏には国会の場で、日本医師会の医療政策の実現に向けて大いに活躍することを期待する。特に、TPP問題に関しては、党利党略に巻き込まれることなく、国民皆保険制度を堅持する立場から正々堂々と論じてほしい。また、全国の郡市医師会にも足を運んでいただき、自らの見識を披露し人柄を知ってもらおう活動を望みたい。

報告

日本医師連盟執行委員会

去る 7 月23日（火）、日本医師会館において日本医師連盟執行委員会が開催された。

委員会の冒頭、日本医師連盟・横倉義武委員長より、第23回参議院選挙において、羽生田たかし副委員長が高位当選を果たしたことに対する謝辞と、日本医師会が目指すべく医療政策の実現に向けた今後の基本姿勢について挨拶がなされた。次いで、羽生田たかし副委員長から、当選に対する謝辞と今後の決意を、また、東京選挙区・武見敬三氏、埼玉選挙区・古川俊治氏より、それぞれ当選の謝辞が述べられた。

議事に移り、日本医師連盟常任執行委員のうち、北海道選出の宮本慎一先生から深澤雅則先生へ交代となること、平成25年度日本医師連盟の交付金還付について承認がなされた。

また、今回の参議院選挙における都道府県別の得票数、第19～23回における自民党比例代表候補の得票数、日医連推薦候補者の当落状況が報告された。

横倉委員長、羽生田副委員長、武見・古川両氏の挨拶は次のとおりである。



◇横倉義武委員長：

本日はお忙しい中、日医連の執行委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

皆様、ご承知のとおり、7月21日の参議院選挙において、日本医師連盟、日本医師会、総力を挙げて戦い抜いて参りました羽生田たかし先生が、全国比例区で見事、高位で当選することができました。これもひとえにご出席の先生方、そして会員の先生のご努力に尽きると思い、心から感謝を申し上げます。

また東京選挙区で武見敬三先生、埼玉選挙区から古川俊治先生、共に素晴らしい成績で当選され、心からお祝い申し上げます。

さて今年 1 月15日の日医連執行委員会において、羽生田たかし日医副会長・日医連副委員長を、組織を挙げた候補として、比例代表選挙を戦い抜いてい

こうと決めさせていただきました。約半年間という極めて短い運動期間でありましたが、まさに各都道府県医師会・医師連盟が、一丸となり、当選を勝ち取ったわけです。

当時、何人かの先生から、なぜ組織内候補を出すのかというご質問をいただきました。

それに対して、最近医師の領域を侵食する動き、すなわち特定看護師の問題や生活習慣病薬のOTC薬化問題など、医師会を代表する国会議員、特に政権与党の国会議員がいないことが一因であるとお答えした経緯がございます。そうであるならば、当選された羽生田たかし先生の役割・使命は極めて重いものがあると思います。そして同時に羽生田先生を推した、横倉はじめ本日ご出席の先生方お一人おひとり、選挙の結果以降、頑張っていかなければいけない責務は極めて重く感じているところです。この度の参議院選挙の自民党圧勝により、衆参のねじれ現象の解消が達成されました。この先、政治情勢は予断を許さないものがあります。それは、本日から交渉に入ったTPP交渉においても我々医療界に身を置く人間にとっては、絶対に譲れない一線というべき公的医療保険による国民皆保険制度の維持や混合診療全面解禁への反対、さらには医療における営利企業の参入阻止が守られるか否かという大きな岐路に立たされています。安倍総理はことあるごとに、国民皆保険制度は世界に冠たる仕組みとして、今後とも堅持するとおっしゃってはいるものの、いわゆる骨太の方針においては、社会保障についても聖域とはせずと明記するなど、今後、医療費抑制策が進められる懸念があり、予断を許さない状況にあります。今後、私ども医療に携わる者に理解のある与党の国会議員の方々との連携をより強め、かつ羽生田先生、武見先生、古川先生に先頭に立ってもらいながら、何としても我々の政策を推し進めていかなければならないと考えております。そのためにも強い医師連盟をつくり上げなければなりません。今回獲得した25万票が、私たち組織の現状です。日医会員一人は2票も獲得していません。日々の活動を通じて、医療と政治の関係を会員の皆様方にしっかり理解してもらう必要があります。今回の参議院選挙は、まずその第一歩であり、強い組織づくりは道半ばです。いずれにしても、この半年間、会員の皆様から寄せられた熱い思いと羽生田先生を全力で支え、そして、国会に送り出して下さった皆様の思いを決して忘れることなく、一丸となって、我々が目

指すべく医療政策推進に全力で邁進する覚悟ですので、今後ともよろしく願いをして、冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

◇羽生田俊副委員長：

皆様方には大変お世話になり、参議院選挙全国比例区に当選することができました。ありがとうございました。選挙中、皆様にお目にかかり、全国各地の皆様のご支援を賜りましたこと、この場を借りて改めて御礼を申し上げます。各地域を歩き、私自身の医療政策をいろいろと訴えさせていただきましたが、TPPの問題等、いろいろな問題が山積みという中で、話をしているうちに、当選する前から、与党内野党的な発言で皆様にはご迷惑をおかけしたかもしれません。今月、TPP交渉が始まり、来月には社会保障国民会議の報告書が出され、医療法改正の議論が始まる、そして来年の診療報酬の改定幅、消費税問題と、大きなことだけでも山積みになっています。これだけ一辺に来ることは、めったにないのではないかと思います。選挙で全国各地域を回り、いろいろな要望も同時に受け、明日から改めて別の場で、しっかり働かなければならないと強く感じた次第です。今日、お見えの武見先生、古川先生が当選されたことは、私にとりましても大変心強いことです。日本医師会には長くいましたが、国政の場は1年生です。お二人にどういう形で政治活動をしていかなければいけないか、教わっていきたいと思います。武見先生は4期目、古川先生も2期目、私にとっては師匠的な存在で、いろいろな形で政治活動を行っていく上で、兄貴分的なご指導をいただき、しっかりと仕事をして参りたいと思います。私のシンクタンクは日本医師会です。全国の日本医師会の会員すべてが私のシンクタンクということで、皆様からのご意見をしっかりと、国政の場で活かす努力をさせていただきたいと思っておりますので、今後とも私に対するご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

◇武見敬三参議院議員（東京選挙区）：

お陰様で私も東京選挙区で当選させていただくことができました。本当に心から御礼を申し上げます。全国比例区では羽生田たかし先生が、先生方のご支援によって、見事、高位当選を実現されました。このことについては心よりお慶びを申し上げます。私自身は東京選挙区の中で、東京都医師連盟の

野中委員長をはじめ、多くの先生方を中心に、医科のみならず、歯科、薬科、栄養、パラメディカル等、様々な関係団体の皆様にもご協力いただき、さらに多くの各団体を含めて、東京地方区という大きな場で、戦いをさせていただきました。全国比例区の時とは違った選挙を経験させていただきました。大変いい勉強にもなり、改めて東京という選挙区を基盤にして、わが国のこれからの国づくりをしっかりとやりたいと考えております。私が選挙で戦った時の大きなテーマは活力ある健康長寿社会を21世紀の日本にいかに構築するかでありました。これを確実に実現して、10年後には世界の多くの国が高齢化を迎える時に、日本がそのモデルとして多くの国々から高く評価される、そうした活力ある健康長寿社会を作り上げることを目標としております。引き続き、先生方のご支援ご指導を頂戴し、こうした日本の国を改めて立て直す、その大きな仕事を是非させていただければと思っております。古川先生もおられて誠に心強い先生方が揃って参りました。改めて先生方の地域医療現場でのご所見を、しっかりと受け止め、わが国の皆保険制度を守り、新しい21世紀型の社会保障制度の仕組みづくりをさせていただきたいと考えております。引き続きのご指導を心からお願い申し上げます。また、東京の外から多くの医師会の先生方が、東京在住の知人をご紹介して下さいまして、それによって、大変心強いご支援を多くいただきました。これは12年余の間、日医連の組織代表として仕事をさせていただいたご恩を強く感じさせるご支援でした。この場をお借りし、改めて御礼を申し上げます。羽生田先生、古川先生としっかりとタッグを組んで、日本の社会保障制度を持続可能で、より優れたものにするために、努力をさせていただきたいと思っております。本日このように御礼を申し上げる機会を頂戴いたしましたこと、本当に感謝いたします。

◇古川俊治参議院議員（埼玉選挙区）：

日医は一時期ちょっと違うところに行ってしまったのかなと思っていましたが、自民党にもすぐ手を差し伸べていただきました。野党で3年4カ月、その後、私と、中村議員の議員活動を支えていただいたことに厚く御礼を申し上げます。この選挙につきましては、いろいろなご支援を先生方から頂戴し、心より感謝いたしております。お陰様で100万725票を獲得し、今までの埼玉県記録を20%以上上回り100万票に到達いたしました。金井忠男先生をはじめ埼玉県医師連盟の先生方、また全国の医師連盟の先生方に直接的・間接的にご支援をいただいたから、このような結果が出たのだと思います。本当にありがとうございました。健康長寿社会、科学と健康で日本を元気にするのが、私のテーマでした。武見先生と同様、国民皆保険制度をしっかりと堅持し、これからは予防医学の充実、看取りの法制度に取り組んでいかなければいけません。同時に、私は研究の現場にもいたので、医薬品、医療機器を支援していき、日本の医療の質を上げていきたい。それが最終的には経済成長と親和性のある社会保障制度の確立に結びつくのだろうと考えております。私は選挙戦を通じてよく思ったのは、国民皆保険制度の堅持がいかに大事であるか、誰でもどこでもいつでも一定の負担で、必要な医療を受けられる制度、日本が文化として世界に誇れる制度です。医者は患者さんがお金を持っているかどうかで、診療の仕方を変えるのは最悪で、こんなことになってはいけません。これから先、議員と現場の先生方で、政権をしっかりと監視するのは当然のことですが、国民の皆さんの世論を味方につけることができるのは、先生方の考えと一致しているからだと思います。本当にご支援ありがとうございました。これから羽生田先生、武見先生と全力で頑張っていきます。